

平成28年度日本小児外科学会  
第5回定例理事会議事録

日 時：平成 29 年 1 月 18 日（水） 11：00～18：00

会 場：日本外科学会 会議室

出席者：黒田達夫（理事長）、越永従道（副理事長）、仁尾正記（理事・会長）、  
窪田正幸（理事・副会長）、八木 實、漆原直人、米倉竹夫、奥山宏臣、山高篤行、  
廣部誠一（以上理事）、上野 滋、濱田吉則、前田貢作（以上監事）、  
渡井 有（財務会計委員長）、菱木知郎（庶務委員長）、藤野明浩（庶務副委員長）、  
浦尾正彦（財務会計副委員長）、和田 基（庶務委員）、仁田尾慶太（事務局）

議事案件：

議 事：

1. 第5回定例理事会の議事録署名人は、奥山宏臣理事、漆原直人理事とした。
2. 平成28年度第4回定例理事会議事録につき、事前配信された内容について確認され、修正点等あれば1週間を目途に事務局に連絡することとした。

3. 報告事項

1) 理事長報告（黒田理事長）

- (1) 医学教育出版社からの寄贈本「KOKUTAI FREE 秋号」を受領した。
- (2) 医学書院からの寄贈本「医学研究者名簿 2016-2017」を受領した。
- (3) 日本医学会からの寄贈 DVD「第 149 回日本医学会シンポジウム医学用語を考える」を受領した。
- (4) 内保連からの寄贈本「内視鏡試案第 1 版」を受領した。
- (5) 外保連からの寄贈本「内視鏡試案第 1 版」を受領した。
- (6) 外科関連専門医制度委員会からの通信文「平成 28 年度第 4 回議事録」を受領した。
- (7) 厚生労働省からの寄贈本「医薬品・医療機器等安全性情報 No.337」を受領した。
- (8) 厚生労働省からの寄贈本「医薬品・医療機器等安全性情報 No.338」を受領した。
- (9) 厚生労働省からの寄贈本「医薬品・医療機器等安全性情報 No.339」を受領した。
- (10) 厚生労働省からの寄贈本「疾病、傷害及び死因の統計分類提要 第 3 巻」を受領した。
- (11) 国際協力遺伝病遺伝子治療フォーラムからの寄贈ポスター「第 7 回国際協力遺伝病遺伝子治療フォーラム」を受領した。
- (12) さいたま市からの寄贈ポスター「さいたま医療ものづくりフォーラム 2017」を受領した。
- (13) 難病のこども支援全国ネットワークからの寄贈本「「がんばれ！」 vol.158」を受領した。
- (14) 難病のこども支援全国ネットワークからの寄贈本「「がんばれ！」 vol.159」を受領し

た。

(15) 難病のこども支援全国ネットワークからの寄贈本「「がんばれ！」vol.160」を受領した。

(16) 日本医学会からの通信文「日本医学会だよりNo.56」を受領した。

(17) 日本医学会からの寄贈本「2017年日本医学会分科会総会一覧」を受領した。

(18) 日本医学放射線学会からの寄贈本「画像診断ガイドライン 2016年版」を受領した。

(19) 日本医師会からの寄贈本「医師の職業倫理指針第3版」を受領した。

(20) 日本医療安全調査機構からの寄贈本「評価結果報告書の概要版」を受領した。

(21) 日本医療安全調査機構からの寄贈本「医療事故報告等に関する報告書」を受領した。

(22) 日本医療機能評価機構からの寄贈本「NEWS LETTER11月号」を受領した。

(23) 日本医療機能評価機構からの寄贈本「NEWS LETTER1月号」を受領した。

(24) 日本がん治療認定医機構からの寄贈本「がん治療認定医教育セミナーテキスト第10版」を受領した。

(25) 日本逆流性腎症フォーラムからの寄贈本「第24回日本逆流性腎症フォーラム記録集」を受領した。

(26) 日本逆流性腎症フォーラムからの寄贈本「第25回日本逆流性腎症フォーラム抄録集」を受領した。

(27) 日本外科学会からの寄贈本「SURGERY TODAY vol46-10」を受領した。

(28) 日本外科学会からの寄贈本「SURGERY TODAY vol46-11」を受領した。

(29) 日本外科学会からの寄贈本「SURGERY TODAY vol46-12」を受領した。

(30) 日本外科学会からの寄贈本「SURGERY TODAY vol47-1」を受領した。

(31) 日本小児科医会からの寄贈本「日本小児科医会会報 第51号」を受領した。

(32) 日本小児科医会からの寄贈本「日本小児科医会ニュース No.62」を受領した。

(33) 日本整形外科学会からの寄贈本「整形外科用語集第8版」を受領した。

(34) 日本製薬工業協会からの寄贈本「製薬協ニューズレターno.175」を受領した。

(35) 日本製薬工業協会からの寄贈本「製薬協ニューズレターno.176」を受領した。

(36) 日本リハビリテーション医学会からの通信文「事務局移転のご挨拶」を受領した。

(37) 福井県産業労働部地域産業・技術振興課からの寄贈本「ふくいメディカルカタログ」を受領した。

(38) 厚生労働省からの寄贈ポスター「乳幼児突然死症候群（SIDS）対策強化月間」を受領した。

(39) 治験促進センターからの通信文「臨床研究・治験推進研究事業における治験候補薬及び治験候補機器等の推薦依頼について」を受領した。

(40) 日本医学会から「高難度新規医療技術の導入に当たっての医療安全に関する基本的な考え方」を受領した。

(41) 日本医学会から「日本医学会分科会における研究倫理教育について」を受領した。

(42) 日本医学会連合から「平成28年度第2回理事会報告」を受領した。

(43) さいたま市からの後援依頼「後援に係る承認申請書」を受領した。特に問題なく承認として提出したことが報告された。

(44) 日本周産期精神保健研究会からの後援依頼「第3回日本周産期精神保健研究会後援

名義依頼」を受領した。特に問題なく承認として提出したことが報告された。

(45) 外科関連専門医制度委員会から「平成 28 年度第 4 回日本外科学会専門医制度委員会議事録」を受領した。乳腺外科と内分泌外科の 2 領域も外科領域のサブスペシャリティとして加わったと報告がされた。新たな動きが出たら理事会で共有することとした。

(46) 厚生労働省から「小児がん拠点病院の指定に関する検討会開催要項」を受領した。この 2 年でがん診療連携拠点病院・小児がん拠点病院の整備指針を改正し、平成 31 年度から新指針に基づく運用が始まると報告された。

(47) 小児連絡協議会から「第 175 回日本小児連絡協議会議事録」を受領した。日本小児科学会、日本小児保健協会、日本小児科医会、日本小児外科系関連学会協議会の 4 団体の活動状況が報告され、また、子育て世代包括支援センターの概要について意見交換がされたと報告された。

(48) 「臨床効果データベース事業」について、今年 1 年限りのこども関連の学会でデータベースを整備する資金として厚生労働省から日本小児科学会経由で本会に 700 万円の予算が使用でき、他学会と話を詰めていると報告がされた。

(49) 「診療ガイドライン英文化承認の内規」について、本会の承認は得られており、パブリックコメント同様に作成後に理事長、副理事長、学術・先進医療検討委員長で審議を進めると報告され、了承された。

## 2) 総合調整委員会報告（越永副理事長）

資料に基づき、以下の委員会報告があり、了承された。

### ① 学会の在り方と一般社団法人変更への準備について

前回の総合調整委員会からの継続審議事項として、医師を中心とする学術的学会にすることで概ね合意が得られ、正会員よりも安価な会員資格の設置により関連領域（麻酔科、泌尿器科、小児集中治療など）に入会の門戸を広げることが提案された。

### ② 学術集会プログラム委員会の役割とあり方

学会企画は学会として継続性を持って取り組む企画であり、前回総合調整委員会までに本学会学術・先進医療検討委員会において企画を案出することが提案され、八木担当理事から現在委員会で作業中である最中である旨の報告があった。

### ③ 秋季シンポジウムのあり方について

秋季シンポジウムの応募演題数増加を受け、今後のあり方について、結論には達しなかったが、内規上（学術集会形式を避け、ひとつのテーマについて十分な討論をおこなえるよう配慮する）の原点は残し、上級演題としてある程度時間をかけて討論を行うセッションを確保しつつ、テーマによってはある程度一般演題も交えて、より多くの会員に参加してもらえるような運用を検討し、今後さらに継続審議を行うこととした。

### ④ データベースの 2 次利用のシステム構築について

データベース 2 次利用について、現在の状況について情報共有がなされ、他の学会における取り扱いについての資料と、データベース委員会ならびに規約委員会を中心に作成された規約改定案を本理事会に提出すると報告がされた。

### 3) WOFAPS報告（奥山理事）

配布資料に基づき、10月11日にワシントンで開催されたWOFAPS Council meetingについて前回理事会から報告された以降の経過について報告され、了承された。本会からはWOFAPS理事会にcouncil meetingの決定が残念だった点、透明性をもって役員選任に関する制度の整備をしてほしい点、WOFAPS理事会で役員選任について承認を得られていた点を再検討してほしい点を奥山理事が原案を作成し、役員回覧後に黒田理事長のサインを入れて提出することとした。

## 4. 審議事項

### 1) 第54回学術集会について（仁尾会長）

仁尾会長および和田庶務委員より、資料に基づき準備状況が報告提案され、以下のよう  
に承認された。

(1) 評議員会、学術集会会期中の保育所について、保育所設置に係る費用については利用者にも半額程度を負担してもらうこととし（負担額の設定は学術集会に一任）、評議員会  
の日は学会本部の費用、学術集会期間中は学術集会で負担することとした。なお、次回学  
術集会以降の託児所の設置及び費用の設定方法については、ワークライフバランス検討委  
員会または他の委員会で学会として継続して検討する部門において検討することとし、継  
続審議となった。

(2) 演題応募状況について、1月12日までの期限を1月19日正午までに延長した。1月  
18日午前の時点での応募数は、国内454題、海外53題である。

(3) プログラム日程表が提示され、了承された。

(4) 査読委員リストが提示され、了承された。計72名。

(5) 抄録アプリのホーム画面デザイン案については後日持ち回り審議にて決定すること  
とした。

(6) 参加事前登録について、1月12日から4月6日までを予定していると報告がされた。

(7) 学会主催セミナー、講習会などの会告について、機関誌1号および2号の会告原稿  
について各委員会に依頼を行っている」と報告された。

### 2) 第55回学術集会について（窪田副会長）

窪田副会長より、資料に基づき準備状況が報告提案され、前回理事会で報告した点から  
以下の点が追加され、承認された。

#### (1) 海外招待演者

**Kenneth KY Wong**

**Clinical Assistant Professor Queen Mary Hospital Hong Kong, China**

「神経調節と次世代へのメッセージ」

#### (2) 海外招待演者

須永 隆夫先生

木戸クリニック所長

漢方

(3) 継続課題:泌尿器「停留精巣の A-Z」

3) 庶務委員会報告 (菱木委員長)

菱木委員長より、資料に基づき報告がなされ、承認された。

2016年12月末現在の会員数は、評議員を除く正会員1,852名(うち海外3名)、評議員309名、名誉会員52名(うち海外6名)、特別会員70名(うち海外1名)の合計2,283名である。

前回理事会で報告した Dr. Jay L. Grosfeld の追悼文を誰が担当するかの確認があり、奥山機関誌担当理事より聖マリアンナ医科大学の北川博昭先生に打診をすることが承認された。

来年度の会費値上げの件、定款施行細則第16条および会費規則第1条の改定案が提示され、規約委員会で再度確認の後、今年の評議員会で審議することとした。

4) 財務会計委員会報告 (渡井委員長)

渡井財務会計委員長より、2016年度決算(暫定)が報告がなされ、承認された。

- ・ 4月1日から10月31日までの正会員会費納入率は81.1%、評議員会費納入率は92.6%である。
- ・ セミナー受講料が予算額より50万程決算額が低く、例年学術集会後に開催していたのを、今回は学術集会前に開催した点で集客ができなかった。
- ・ 卒後セミナー費について予算より多く支出したのは、予算作成時点での講師とは違う講師が参加され、その分の旅費・宿泊費を見積もれなかったと報告された。この点に関しては、教育委員会との今後の検討課題となった。
- ・ 第53回学術集会、第31回秋季シンポジウム、第32回秋季シンポジウムの決算が組み込まれていない状況だが、10月31日時点の収入合計35,078,347円、支出合計76,053,304円である。

5) 各種委員会報告および審議事項

(1) 機関誌委員会 (奥山担当理事)

奥山担当理事より、資料に基づき、以下の報告・提案があり承認された。

1. 昨年1年間の投稿論文の採択状況 (2016. 1-12月)

1) 投稿論文 (平成28年1月～平成28年12月投稿) の内訳

	投稿 総数	審査終了 論文数	投稿から 採用までの 平均日数	採用	不採用 取下げ	採用率 (%)	審査中 論文数
原著	25 (0)	10 (0)	156	9 (0)	1 (0)	90.0 (100)	15 (0)

症例 報告	72 (0)	42 (0)	114	41 (0)	1 (0)	97.6 (0)	30 (0)
総説	1 (0)	1 (0)	0	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)
合計	98 (0)	53 (0)		50 (0)	3 (0)	94.3 (0)	45 (0)

( ) は、うち英文論文の投稿

2) 筆頭著者の所属

外科・小児外科：94、消化器外科：2、移植外科：1

3) 無審査論文

特集：0、学術集会記録：11 カテゴリー、委員会等報告：0

4) 過去5年間の投稿論文総数と採用率（平成29年1月16日現在）

年	投稿総数	審査終了 論文数	採用	不採用/ 取下げ	採用率 (%)	審査中 論文数
2012	101	101	80	21	79.2	0
2013	103	103	84	19	81.6	0
2014	92	92	70	21	76.1	1
2015	88	86	81	5	94.2	2
2016	98	53	50	3	94.3	45

5) 投稿方法（電子メール・郵送）状況（平成29年1月16日現在）

年	投稿総数	電子メール	郵送
2012	101	96	5
2013	103	98	5
2014	92	88	4
2015	87	82	5
2016	98	97	1

6) 機関誌論文の査読辞退状況（平成29年1月16日現在）

年	投稿総数	査読者総数	辞退者総数
2013	103	213	15
2014	92	187	20
2015	88	183	20
2016	98	200	28

2. 11-12月で査読に関して問題となった事例は無し

論文受付 No. 15076（第5稿） 標題：腎動脈本幹に仮性動脈瘤を形成した小児鈍的腎外傷

の1例→第5稿まで書き直しとなり、著者より査読回数が多すぎる旨のクレームがあった。

3. 超過料金の見直しに伴う、投稿規定の改定について

理事会の承認により、1月1日より、投稿規定の該当部分が、以下のように改訂された。

「10. 掲載料，別冊代金，図表作製料

掲載料として一律 10,000 円を申し受けます（依頼原稿はこの限りではありません）。また原著，総説は刷り上り 4 頁まで，症例報告は同 3 頁までを無料とし，超過分は 1 頁 15,000 円を著者負担とします。地方会・研究会の抄録は 1 頁 15,000 円です。」

4. CiNii より J-STAGE への移行について

移行の手続きが終了し、1月1日より Vol. 1-48 が公開となった。第1巻（1965年）から閲覧可能。参考までに、第1巻は、第1回日本小児外科学会総会号（会長：若林 修教授）

5. 転載許可申請について： 11-12月は無し

6. 学会記録について

学会記録に関しては、理事会の決定により、会長がすべてを取りまとめることになった。但し、会長の裁量で記事のページ数が増えて財政に負担が生じるため、構成案を機関誌委員会で作成し、会長に提示することになった。

7. 優秀論文の選定について

11月から選考を開始し、一次審査にてすべての原著、症例報告を採点し、合計点の高い原著、症例報告を各5編選んだ。現在、二次審査として、もう一度全員で採点を行っているところ。

2次審査の結果をもとに、2月18日の機関誌委員会にて審議し、原著、症例報告各1編を選出し、理事会に推薦する予定。

8. 査読者の手引きの作成について

査読を公正かつ円滑に行うために、査読者の選定基準や、査読方法に関して一定の基準を設けた査読者の手引きの草案が提示され、後日奥山担当理事まで意見を寄せることとした。

9. 小児外科学会雑誌に掲載された論文をそのまま、英語にして欧文誌投稿することの是非について

過去に小児外科雑誌に掲載された論文を海外の雑誌に投稿したいと申し出があったと報告があり、投稿者が別の論文として海外に投稿することになったが、本会に英語の論文を日本語にした場合（逆も同じく）のような申し出があった際には二次出版は受け付けないということが確認された。

(2) 国際・広報委員会報告（黒田担当理事）

黒田担当理事より、以下の報告があり承認された。今後ホームページの重複している箇所があるので、1つのページにまとめるか検討を続けると報告された。

1. ホームページ更新報告

①パブコメ終了後の学会推薦ガイドラインの掲載

②評議員選挙公示関連

③NCD 登録期日についての案内(配信予定)

2. パブリックコメント依頼に対する対応について

①パブコメ依頼が学会に来た場合:

理事長、副理事長、学術担当理事で受諾の是非を判断し、受諾可となれば、国際広報委員長に連絡してホームページへの掲載を進める。ただし、上記 3 名で判断にこまるような何らかの問題(倫理的問題など)のある場合には、学術先進医療検討委員会で審議を行う。文責は、依頼側にあるため、小児外科学会国際広報では定期メール配信と新着案内のみで対応する。依頼側の HP などにガイドライン案を掲示(リンク)し、所定のパブコメ返信先を明示してもらう。

②パブコメ・外部評価終了後、完成版を小児外科学会で推薦依頼がきた場合:

理事長に依頼し、学術先進医療検討委員会で審議を行う。審議の結果、(変更要なら修正要望)掲載が承認されたら、国際広報委員長に連絡してホームページへ掲載する。

3.国際活動

WOFAPS:general council meeting 報告

4.ホームページ見直しについて:英語版改訂作業中

①委員会・役職名の英語表記の統一(資料 2)

②日本小児外科学会認定の小児外科専門医の技術保障として、本邦の専門医基準を公開(英語版最終提出版の編集中)

(3) 保険診療委員会(廣部担当理事)

廣部担当理事より、資料に基づき以下の報告があり承認された。

1) 平成30年度診療報酬改定の要望項目(外保連アンケートへの回答)

10月29日に委員会を開催し、当学会から外保連へ提出する平成30年度診療報酬改定の要望項目と順位について審議を行い下記の通りに決定した。

その後、改正6番については対側の精巣固定術を伴うもの(7810点)の増点を申請することで、その他のもの(K838 2: 8230点)が減点されるだけになるという危惧があり日本小児泌尿器科学会から提案を見送るという連絡があった。また、改正8番についてはエコー、CT、MRIでトリクロやエスケレを使う手間は既に小児の加算分で補われているという意見があった。これらの理由からこの二つの要望は取り止め、11月30日に技術新設5項目と技術改正6項目(改正6番と8番を除く)を外保連へ提出した。

(技術新設)

1. 小腸移植術: 日本移植学会と共同提案の予定

2. 腸管延長術(STEP法): 外保連試案へ新規掲載依頼済

3. 腹腔鏡下胆道閉鎖症手術: 再要望

4. 胸骨挙上用固定具(ペクタスバー) 抜去術: 外保連試案へ新規掲載依頼済

5. 食道瘻造設術



(技術改正)

1. 腹腔鏡下総胆管拡張症手術(K674-2)の増点:アンケート結果を集計して外保連試案の手術時間を変更依頼中
2. 一酸化窒素吸入療法 (J045-2) の適応拡大:その他の場合に先天性横隔膜ヘルニアの周術期管理を追加、日本周産期・新生児医学会と共同提案の予定
3. 自動縫合器加算(K936)の適応拡大:腹腔鏡下総胆管拡張症手術(緊急要望済)、技術新設要望の腸管延長術 (STEP法) と腹腔鏡下胆道閉鎖症手術を追加
4. 組織試験採取、切採法 直腸(D417 10)の増点:再要望
5. 交通性陰嚢水腫手術(K835 1)の増点:日本小児泌尿器科学会と共同提案
- ~~6. 精索捻転手術、対側の精巣固定術を伴うもの(K838 1)の増点:日本小児泌尿器科学会と共同提案~~
7. 静脈麻酔、複雑な場合(L001-2 3)の増点および算定要件の変更:800点→2231点への増点および常勤の麻酔科医という算定要件を削除、多数の学会から共同提案
- ~~8. 筋肉注射による全身麻酔、注腸による麻酔(L001)の適応拡大:トリクロールシロップ内服とエスクレ座薬による鎮静を追加~~

## 2) 日本外科学会へ提出した平成30年度診療報酬改定要望項目

11月21日に日本外科学会保険診療委員会が開催され、日本外科学会から外保連へ提出する要望項目について審議が行われた。その結果、当学会から要望した小腸移植術と自動縫合器加算の適応拡大(腹腔鏡下総胆管拡張症手術を含む)の2項目は、それぞれ新設要望第3位と改正要望第5位として採用された。

## 3) 新設された内視鏡手術についてのアンケート結果と対応

11月12日でアンケート回収を終了した。回収率は27.7%で、外保連へ提出する実態調査については胸腔鏡下先天性食道閉鎖症根治手術16例、腹腔鏡下総胆管拡張症手術23例、腹腔鏡下腸重積症整復術14例の回答があった。手術時間については下記のような結果になり、今回は3術式の中で20例以上のデータが集まった腹腔鏡下総胆管拡張症手術のみ手術時間の修正を外保連に依頼した。

なお、結果の詳細については本年5月の当学会学術集会(仙台)にて発表する予定である。手術時間の短いデータばかり集まると実態よりも手術時間が短くなり、その結果保険点数が下がるリスクがあるということも会員に伝えたい。

内視鏡手術	中央値	標準偏差	補正值案	(現在の外保連試案値)
食道閉鎖(16例)	2時間45分	30分	—	(6時間)
胆道拡張症(23例)	6時間51分	101分	7時間	(5時間)
腸重積症(14例)	1時間18分	32分	—	(1.5時間)

## 4) 腹腔鏡下胆道閉鎖症手術の施設基準について

11月19日に新潟にて胆道閉鎖症研究会先進医療検討WGが開催され、平成30年度診療報酬改定で腹腔鏡下胆道閉鎖症手術の新設を要望する際に提出する施設基準に関して審議が行われ下記の通りに決まった。

①腹腔鏡下胆道閉鎖症手術を5例以上実施した経験を有する常勤医師が配置されているこ

と

②胆道閉鎖症手術を過去3年間に5例以上施行していること

③腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術を除く小児腹腔鏡手術(16歳未満)を年間50例以上施行していること

5) 内保連・外保連合同で、内視鏡試案第1版が発刊(2016年11月)

内視鏡委員に小高明雄氏を推薦し了承された。(2017年1月14日に第1回委員会が開催された)

6) 外保連・診断群分類の検討に関するワーキンググループ

MDC14、15の川瀬弘一班長から、平成30年改定に向けての班員2名の推薦依頼があり、小高明雄氏と神保教広氏を推薦し了承された。

#### (4) 教育委員会 (山高担当理事)

山高担当理事より、資料に基づき以下の報告があり承認された。

##### 1. 日本医学会分科会における研究倫理教育に関する提案事項について

日本医学会から連絡のあった「日本医学会分科会における研究倫理教育」について委員会でメール審議を行ない、以下の提案事項を日本医学会に本理事会後に送付すると報告された。

①研究倫理教育にかかる教材内容の標準化と受講者の理解度測定・自己点検の導入

②研究倫理教育に関する学習機会の提供とともに、会員の認定医・専門医・指導医の資格取得・更新のための単位取得条件(例、1単位)としての必須化

③会員の利便性向上のために、分科会間における単位の互換性化に向けた共通の研究倫理研修履修証明書の発行

##### 2. 日本小児科学会からの「奇形」を含む医学用語の置き換えの提案について

同じく教育委員会にてメール審議を行ない、日本小児科学会に委員会でまとめた意見を本理事会後に送付すると報告された。

言葉は生き物であり、その時代背景や異なる分野において、その言葉の意義や含むニュアンスは変化してゆくと思われる。今回焦点となっている「奇形」という医学用語が、現在の実際の一般社会常識に照らして、患者や家族へ精神的ダメージを与え尊厳を損ねる恐れがある医学用語であるかどうかを検討すべき、という趣旨に賛同する。その他、置き換えの原則について委員会の意見をまとめたものが報告された。

##### 3. 第33回卒後教育セミナー・第8回内視鏡手術手技セミナー会告について

今年の学術集会期間中に開催する第33回卒後教育セミナー・第8回内視鏡手術手技セミナー会告が報告された。

#### (5) 悪性腫瘍委員会 (米倉担当理事)

米倉担当理事より、資料に基づき以下の報告提案があり承認された。

##### 1. 要望事項

・腎腫瘍の共同研究の代表選出について

人選の時間が少なかったこともあり、悪性腫瘍委員会内で審議することができなかった。要望されているデータ提供が可能かどうかも含めて、悪性腫瘍委員会での審議を経ることが望ましいので、今後はその手続きをお願いします。

## 2.他登録事業との連携について

### ①小児血液がん学会のWeb登録との連携

・小児外科学会の現在の登録の内容をある程度踏襲した形で、日本小児血液・がん学会の新しいweb登録と連携できる内容を作成することとなった。

・具体的な作業として、各腫瘍、システム、生物統計などの領域に分けて小児血液がん学会と合同のWGを作って検討していく(経費は日本小児血液・がん学会で負担)。

### ②臨床効果データベース(DB)整備事業の活用

・日本小児血液・がん学会のWeb登録する経費として、700万円のうちの約100万円を計上。

## 3.総合的な思春期・若年成人(AYA)世代のがん対策のあり方に関する研究について

・「AYA」という言葉を知らなかった専門医が約40%である一方、80%以上の専門医がAYA世代(若年であること)を意識して診療している等、アンケート結果が報告された。

## (6) 学術・先進医療検討委員会 (八木担当理事)

八木担当理事より、資料に基づき以下の報告があり承認された。また、本委員会への依頼数が増えてきており、委員の過重労働が心配される点が、今後の検討課題とされた。

### 1.会員対象のアンケート調査依頼の審査および認可

前回理事会から5件の依頼について審議を行った。

### 2.先進医療及び学術的情報収集および会員への情報提供

#### ①HP 上に小児外科診療に関連したガイドライン・治療指針を掲載する。

2016年12月20日に、先天性高インスリン血症診療ガイドラインをHPに掲載した。

2016年12月25日に、極低出生体重児の消化管機能障害診療ガイドラインをHPに掲載した。ガイドライン集は、今後、毎年春から夏に更新する予定である。

#### ②小児外科関連 Systematic Review の掲載をHP掲載

今回、特に報告事項なし。今後、毎年春から夏に更新する予定である。

### 3.その他

①学会承認のガイドラインの承認・公表(和文・英文)への対応を明文化すべく、次回理事会までに草案を委員会で作成。

②学術集会上級演題企画案を作成。

③今後の委員会開催予定:平成29年5月、第54回日本小児外科学会学術集会期間中

## (7) 倫理・安全管理委員会 (漆原担当理事)

漆原担当理事より、資料に基づき以下の報告があり承認された。

1. 第54回日本小児外科学会学術集会(仙台)での医療倫理講習および感染対策講習の講師が正式に決定

医療倫理講習 2017年5月12日 17:20~18:20

講師 高田史男先生 北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝医学講座 教授

演題 未定

感染対策講習 2017年5月11日 17:40~18:40

講師 賀来満夫先生 東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座

感染制御・検査診断学分野 教授

演題 未定

2. 倫理安全管理委員会だより

第11回として、「気管切開チューブの管理のお話」をHPに掲載。

3. 第117回日本外科学会定期学術集会は“医療安全そして考える外科学”をテーマとして開催されることから、各領域ごとに「医療リスクセッション」が設けられる。小児外科領域として、司会、演者を下記のとおり選定。4月28日は4人の演者の講演、質疑応答、4月29日は前日の司会者である仁尾理事が演者として28日のまとめを行う。

4月28日(金) 13:30~15:30

司会:仁尾正記(東北大学小児外科)

漆原直人(静岡県立こども病院小児外科)

1. 総論:藤盛啓成(東北大学医療安全推進室室長)

2. 各論:小林弘幸(順天堂大学総合診療科)

3. 各論:世川 修(東京女子医科大学小児外科)

4. 各論:野田卓男(岡山大学小児外科)

4月29日(土) 13:30~14:30

司会:漆原直人(静岡県立こども病院小児外科)

演者:仁尾正記(東北大学小児外科)

(8) データベース委員会 (米倉担当理事)

米倉担当理事より、資料に基づき以下の報告提案があり承認された。

1) 2017小児外科-NCD術式対応表(案)の改訂

NCD術式の新規追加・削除・術式番号の改訂に伴い、紐付けの見直しを行い、専門医認定委員会でも承認済み。

2) 医療品質対象手術の追加(資料3)

新術式の追加および泌尿器との連携も視野にいれ医療評価対象手術を追加した。登録症例数としては12%から13%に増加する。

3) 2017年度NCD-P改訂とテスト入力

2017年度のNCD-Pの項目の改訂を行い、昨年末から10施設×10症例のテスト入力し、問題点の抽出を行いその改修を行った。

4) 2017年のNCD登録の開始

1月12日よりNCDに小児外科領域の2017年症例登録が開始された。

2017年版のCase Report Form (CRF)につきましても掲載が完了。

5) 自施設データダウンロードの運用について

データダウンロードは各領域からの要望としてでていたものを、個々の施設の診療科内でのみの資料として認めることになり、「2017年1月17日(火曜)」にリリース予定。申請手続きの許可は各学会が行うとともに、運用の責任は学会が担当する。現在、DB委員会ではNCDの運用規定をもとに小児外科学会用の規定を作成中。

【ダウンロードフロー】

①各施設の診療科長がNCD症例登録画面より、オンラインで申請内容を入力し、申請書及び同意書をNCDへ郵送。

②NCD事務局は申請書及び同意書が到着を確認する。オンラインの申請内容を一覧表にまとめたものを、対象領域に応じて各社員学会へメールにて連絡。

【NCD事務局内での確認期間の目安:2週間程度】

③各学会で申請受理の可否について検討。

【学会内での確認期間の目安:2週間程度】

④各学会からの返答をNCDが受け、申請が許可された施設診療科(長)へ、ダウンロード可能期間等を通知。

【機能設定の目安:1週間程度】

⑤申請許可の下りた診療科長向けにダウンロード機能を提供。

6) NCD 2011-2012のannual report を用いたデータのupgrade版の国際発信用のレポートの投稿について

2011年のデータの信憑性について再度委員会で検討して次回理事会に提案することとした。

7) NCDデータ利用申請(資料11)

NCDデータ利用申請については学会の許可を必ず取るということまで決定とし、その他のルールについては再度委員会で検討することとした。また、学会に申請・承認したものについては学会HPに掲載し、会員に分かるような状態にすることとした。

8) 小児領域における臨床効果データベース(DB)整備事業の活用について(資料12)

以下の用に臨床効果データベース整備事業の使い道が示され、承認された。

①専門医制度合同委員会：190万円

小児外科指導医認定に対する手術登録整備(=NTTPCの指導医DBの改修費用)

②学術先進医療委員会・DB委員会：200万円

新生児外科全国集計の解析構築(=NCD-Pを用いた新生児登録の解析構築)

③悪性腫瘍委員会：100万円

日本小児血液・がん学会登録と日本小児外科学会悪性腫瘍登録のwebシステム統合

④その他の予算については継続してデータベース委員会で検討することとした。

(9) 小児救急検討委員会(奥山担当理事)

奥山担当理事より、以下の報告があり承認された。

・今年の救急セミナーの内容について持ち回り委員会でテーマおよび講師を決定した旨、報告された。

(10) 利益相反委員会（漆原担当理事）

漆原担当理事より、以下の報告・提案があり承認された。

・役員・委員向けに利益相反に関する自己申告書の提出依頼を行い、1名利益相反ありの方がおり、委員会で審議を行っている」と報告された。

(11) ワークライフバランス検討委員会（廣部担当理事）

廣部担当理事より、資料に基づき、以下の報告・提案があり承認された。

1.平成 28年度 第2回ワークライフバランス検討委員会 定例会議報告

日時:平成 28 年 10 月 27 日(木) 12 時~13 時 (PSJM・秋季シンポ会期中)

①第5回 WLB 講演会について

PSJM2017・秋季シンポジウム会期中を予定し、講師選定中

②第 54 回日本小児外科学会学術集会 特別企画について

日時:平成 29 年 5 月 13 日(土) 8:20~9:10

テーマ名:女性小児外科医の活躍促進・ダイバーシティ時代を迎えた小児外科のこれから・

形式 :3演題とディスカッション(すべて指定)

八木 實、新開 真人、望月 響子

司会 :廣部、中原

内容 :日本小児外科学会では、男女共同参画およびダイバーシティ(多様性)の実現を積極的に進めていくことを表明している。このような取り組みを紹介するとともに問題点およびその解決策について討論する。

③平成 29 年評議員選挙での理事長推薦女性評議員の推薦基準について

評議員の条件は会員になって 3 年であればよい。専門医でなくてよい。原則として立候補者の中から選ぶ。

→女性会員の立候補を積極的に促す案内文を学会 HP に掲載。

WLB 委員会からのメッセージとして会員全体にメールで案内を配信する。

立候補者が 30 人に満たない場合に二次募集をかけるかどうかについては理事会での議論に委ね、まずはアクションし意識改革を行う。

2.第 4 回講演会および懇親会報告

10 月 27 日(木)19 時~20 時

演題 「Just Do It~やるっきゃない」

講師 松本晃

株式会社 Calbee 代表取締役社長兼 CEO)

「日本から外科医がいなくなることを憂い行動する会」会長

内容 カルビー株式会社で行われている業務のスリム化、効率化について紹介

詳細な報告については、今後委員会 HP 上に掲載予定

日本医師会からの支援金 下記金額を報告書とともに提出・申請中

会場費: 62,800 円 講師謝礼・交通費: 66,822 円 飲料代: 58,200 円 計 187,822 円

(12) トランジション検討委員会（八木担当理事）

八木担当理事より、資料に基づき、以下報告があり承認された。

1)第 4 回トランジション検討委員会開催(2016年10月29日、秋季シンポジウム開催時)

2)移行期支援ガイドブック(配布)

ガイドブックは、国立成育医療研究センターが主管である小児慢性特定疾病児童成人移行期支援モデル事業から支援をうけ、10月20日に冊子完成。代金は200部102,600円。HPにPDFとして掲載依頼。

発送先は

1 日本小児外科学会(事務局)115部

2 小児慢性特定疾病児童移行期支援モデル事業(成育)40部

3 日本小児科学会小児慢性疾患患者の支援ワーキンググループ 25部

4 日本小児血液・がん学会長期フォローアップ・移行期医療委員会 20部

小児外科学会保管分についての発送先、発送方法は検討中。

他の宛先として

日本外科学会、日本内科学会、日本肝臓学会、日本胆道学会、日本産婦人科学会、日本泌尿器科学会、日本小児泌尿器学会、日本消化器病学会、日本周産期・新生児学会、難病のこども支援全国ネットワークを検討中。

3)重症心身障害児(者)用サマリー

原案を作成。内容について担当委員間で修正の後、2016年12月末完成予定。

4)患者サマリー作成

ガイドブックで担当した疾患・病態についての患者サマリー作成。原案のExcelを送付するため、ガイドブックの担当にあわせて2017年2月の委員会までに提出予定。

(テーマ)鎖肛、総排泄腔遺残、腸管不全、胆道閉鎖症・胆道拡張症、二分脊椎

(13) 規約委員会（越永担当理事）

越永担当理事より、資料に基づき、以下報告があり承認された。

前回理事会で承認されている理事会内申し合わせの「理事会への前理事長出席について」の項目について、一部文章を改定された内容が提出された。スーパーバイザーは監事の役割の為、その点を再度委員会で検討して理事会に提出することとした。

8) 選挙管理委員会報告について（菱木委員長）

菱木委員長より、以下の通り報告・提案され、承認された。

- ・12月25日までに届けられた立候補者は394名となった。
- ・第23回評議員選挙（電子投票）の投票のお知らせにつき、資料に基づき報告され、承認された。
- ・投票開始日が選挙公示には明記していない為、HP等でご案内することとした。

9) 第 35 回秋季シンポジウムについて (奥山理事)

奥山理事より、資料に基づき報告提案され、以下のように承認された。

10 月 28 日の秋季シンポジウム委員会において「小児外科手術の新たな工夫」として仮決定していたテーマについて、12 月 6 日の総合調整委員会では、関連領域の医療者に小児外科学会、総会へ積極的に参加を促す方策についての議論があり、各領域の意見を聴取することになったと報告があった。

総合調整委員会後、小児集中治療医 2 名からの意見は以下の通り。

- ① 学術集会やワークショップの共同開催、共同セッションの設定
  - ② 「共同演者は学会員でなくてもよい」は学術集会への参加を促すために必要
  - ③ 秋季シンポジウムはこれまでの様に 3 年に 1 回程度関連領域のテーマを取り上げる。例えば、救急、集中治療、周産期などのテーマを 3 年に 1 回ローテートする。
- 以上の議論、意見を踏まえて「小児集中治療」が提案されたが、テーマを再考するかについては、持ち回りの秋季シンポジウム委員会を開催し決定することとした。

10) 次回定例理事会日程の確認(黒田理事長)

次回理事会は平成 29 年 3 月 16 日 (木) 11:00~16:00 日本外科学会会議室にて開催することが確認された。

理事長 \_\_\_\_\_

理 事 \_\_\_\_\_

理 事 \_\_\_\_\_